

宮町

すん しゅう せき しん たい の ひ 駿州赤心隊之碑

駿州赤心隊は、慶応4(1868)年、官軍(政府の軍隊)が倒幕のために送った東征軍を援護するために駿河国(静岡県)の神官を中心に結成され、隊長を大宮浅間神社(現在の富士山本宮浅間大社)大宮司の富士亦八郎が務めました。

赤心隊は、官軍の護衛をしながら江戸に入り、官軍指揮官のもとで活躍しました。

明治維新後、江戸幕府最後の将軍徳川慶喜が多くの家臣とともに駿遠地域(静岡県)に移り住んだため、官軍に協力した富士亦八郎は身の危険を感じ、東京にとどまりました。明治3(1870)年、住居としていた芙蓉館が何者かに放火され焼失しました。

昭和9年に町民によって建てられた駿州赤心隊の石碑は、現在は湧玉池の脇にあります。



歩く博物館H西コース<大宮西地区> 旧大宮町西地区をめぐるコース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



ふ よう かん ひ 芙蓉館碑

芙蓉館碑は、市民文化会館大ホール入口の正面に建っています。

かつてこの辺り一帯に、大宮浅間神社大宮司の居館「芙蓉館」があったことを後世に伝えるため、富士亦八郎の願いによって、明治29(1896)年この石碑が建てられました。

石碑に彫られた「芙蓉館碑」の文字は、当時学習院院長であった近衛篤磨の書で、その下の本文は、当時、衆議院議長であった楠本正隆によるものです。

【本文の内容】

大宮司富士亦八郎が東京に移った後、かつて富士氏が住んだ芙蓉館も日に日に荒廃の一途をたどり、その一部は耕地と化し、他は狐狸の巣窟となり、ありし日の面影は消え去ろうとしていた。亦八郎は、こうした先祖伝来の由緒の地が消え去ろうとすることを恐れ、これを永久に残すため、この碑を建てた。



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

- 料** 500円
- 申** 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で
- 他** 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。
- 問** 文化課 ☎22-1187
✉e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

有料
ガイドブック



問 文化課 ☎22-1187 FAX 22-1209